

# 事業評価シート（平成26年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	美術教育の普及・体験事業		
事業担当	社会教育部 美術館		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	感性 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	館を訪れる方	事業期間	
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
美術教育を通して、気軽に美術活動に取り組める機会が充実しています。		美術教育普及活動を推進するため、ワークショップを開催します。	

## 2. 事業の検証

活動指標	指標名	ワークショップ等開催回数			単位	回
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	30	30	30	44	
	実績	41	46	62		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	ワークショップ等参加者数			単位	人
	説明・算定式	短期コース参加者数				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	800	1000	1200	1200	
	実績	1072	1550	1840		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	: 予定どおり					
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
ワークショップのメニューに展覧会の関連事業を取り入れるなど、62の講座を行った結果、子どもや親子対象の講座はいずれも好評でした。なかでも、「作ってあそぼうわくわくランド」講座は182名、「0才からの鑑賞ツアー」は137名、「遊んでのびのび赤ちゃんアート」は115名の参加があり、また、作家本人のワークショップには63名の参加がありました。						
平成26年度の検証結果	A : 成果があがった					

	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	メニューによっては非常に多くの参加希望者がいることから、このような市民ニーズに応えるためにもワークショップの充実を図る必要があります。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	メニューを充実させるとともに事業を継続していくことが、美術教育の普及・体験に効果的と考えます。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	美術教育の普及・体験を図るため子どもから大人まで気軽に美術に触れる機会を提供していきます。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	近隣の若手芸術家や作家本人、大学と連携した講座の開催を進めていきます。	高中低
今後に向けた課題の分析				
子育て支援の赤ちゃんアートなど、赤ちゃんから大人まで幅広い世代を対象としたワークショップの充実を図ることが必要です。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		キッズアート等のワークショップの開催	キッズアート等のワークショップの開催	赤ちゃんアート等のワークショップの開催	赤ちゃんアート等のワークショップの開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	400	0	714	0
	一般財源	1,339	2,552	1,363	1,991
事業費 (A)		1,739	2,552	2,077	1,991
執行率 (%)		88.77	89.20	94.75	

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針	子育て支援のワークショップ及び小学校と連携し小学生を対象としたワークショップの充実をめめます。
課長コメント	地域と密着して赤ちゃんから大人まで幅広い年齢層が参加体験できるワークショップの充実と魅力向上に努めます。